

美術 Academy&School



実

実際に絵を描いたり工芸品を創ったりしなくても、たまには

美術館巡りする人も多いだろう。旅先で歴史的な建造物を見に行ったり、地域の工芸品を買い求めたりした経験もあるのでは。自分で創るのもアートの楽しみだが、「見る」「知る」「触れる」のもまた楽しい。

2009年からスタートした、社会人のためのアートスクール「美



上/受講生は「もともと美術が好き」という人が多いが、必ずしも専門知識を持つ人ばかりではない。「中国に旅行に行くから東洋美術について学びたい」など、まったくの初学者も少なくないという。
左/スライドで作品を見ながら、先生の解説を聞く聴講型の講座。1クラスは大体10人前後で、回を重ねるうちに受講生同士の交流も増えていく。

術 Academy & School」は、

創作の技術を習う学校ではなく、知識を学んで鑑賞力を養い、美術やアートの見方、楽しみ方を磨いていくスクールだ。主催する川内美華さんは、「大人の知的好奇心をくすぐる学びの場」と説明する。

スクールでは主に、西洋美術、東洋美術、日本美術、現代美術などの地域別・ジャンル別の講座を定例で



コース名◎「新・西洋美術のルール」
開講場所◎
四谷ビジネスラウンジ
東京都千代田区麹町 6-2-6
ユニ麹町ビル4F
受講料◎25,000円(税込)
初めての受講の方は入学金(1万円)が別途かかります。
問い合わせ先◎
美術 Academy&School
03-4226-3009
ウェブサイト◎
<http://art-a-school.info/>

開講。その中で、3〜5カ月単位でひとつのテーマについて学んでいく。例えば西洋美術の講座であれば、今シーズンは「神話絵画」、来シーズンは「聖書絵画」といった具合だ。講師は美術研究者や元学芸員、建築の講座であれば建築家を迎えるなど、各分野の専門家をそろえている。講座によっては、かなり専門的な内容になることもある。

「とはいっても、大学の美術史講座ではないので、あくまでも『好きなことを楽しむ』が基本スタンス。展示会がより楽しくなるような知識を身につけてもらうのがメインです」今回取材した「新・西洋美術のルール」は、神話や聖書を描いた西洋絵画のさまざまなルールを学ぼうというものだ。例えば、シンボルに込められた意味を知ること、絵画の見方もより広がる。

受講生からは、「背景がわかると作品への理解もさらに深まって楽しい」「自分では気づかなかった新しい着眼点を教わった」など好評だ。また、「仲間ができたのがうれし

い」という声も少なくない。受講生同士は年齢も職業も性別も多様だが、大好きなアートについて思いきり語り合える貴重な存在。共通の趣味を持つ仲間として、連れ立って展覧会に出かけることも多いという。

定例の講座のほか、街中にあるアートを見に行くフィールドワークや、気軽に学べる1dayセミナーなども開催している。また、「ART TRANSIT」というサークルもあり、交流会や研究会、美術ツアーなどのイベントも行っている。

肩肘張らず、もっと気軽にアートに触れ、その背景を学び、感動を語り合う。そんな身近な楽しみを満喫できるのがここなのだ。

「悲しそうな絵に思わず心を動かされる。それによって今まで気づかなかった自分に出会うこともある。作品を通じて、行ったことのない国の歴史の時代をのぞき見ることもできる。アートは自分を知る、社会を知る窓でもあります。ぜひそんな楽しさを多くの人に知ってもらえればうれしいですね」